

愛媛県ドクターへリ運航業務提案書作成要領

愛媛県ドクターへリの運航体制の基本方針を踏まえたうえで、貴社の提案が仕様書の水準と比べてどの水準なのか理解しやすいように、簡潔で分かり易い表現で記載すること。

1 ドクターへリの仕様等

(1) 専用機の機種の提案とその理由

搭乗人員、キャビンスペース、傷病者等の乗降、騒音、巡航速度、航続距離、アピールポイント等を記載すること。

ただし、運航開始時期までに仕様書第7（1）④及び⑤の要件を満たす機体の調達が困難な場合にあっては、委託者と協議のうえ、運航開始時期その他必要な事項について了解を得ることを条件として、当該要件の適用を必要な範囲に限り変更することができるものとする。

この場合においては、当該機体の導入時期及び運航期間を含めた具体的な導入スケジュールを提案書に記載すること。

(2) 通年運航を保障するための代替機種の提案とその理由

搭乗人員、キャビンスペース、傷病者等の乗降、騒音、巡航速度、航続距離、アピールポイント等を記載すること。

(3) 必要な機体装備品の提案とその理由（代替機を含む。）

(4) 搭載医療機器用の内装の提案とその理由（代替機を含む。）

(5) 令和8年4月1日からの運航開始とした提案とすること。

2 ドクターへリの運航体制

(1) 操縦士、整備士及び運航管理担当者の体制

ドクターへリの安全で、効果的、継続的な運用を図るための必要な技能、経験、資格、代替要員等の支援体制等を提案すること。

また、ライセンス保持者一覧表を添付し、提案した内容に該当するものについて、ヘリコプター総飛行時間数、専用機種の飛行時間等、整備士にあっては有資格航空整備士としての実務経験年数、専用機種又は同等以上の航空機を含む整備実務経験年数、運航管理担当者にあっては、運航管理担当者としての実務経験年数等を示すこと。

(2) 日常及び定期整備の体制

整備体制、スケジュールをわかりやすく提案すること。

(3) ドクターへリの衛生管理等

ドクターへリ及び搭載する資機材の滅菌又は消毒及び保守管理について具体的に記載すること。

(4) 会社内の運航管理、安全管理体制

会社全体の体制を示し、特にドクターへリについては詳細に説明すること。また、搭乗スタッフ（操縦士・整備士・運航管理担当者）及び医療スタッフ（ドク

ターヘリ搭乗医師・看護師)に対する安全教育体制とその内容についても説明すること。

(5) 専用機に不測の事態（事故等）が生じた場合の対応

専用機に不具合等が発見された場合の対応について、下記事項を説明すること。

ア 午前8時時点で専用機の不具合が発見された場合の運航再開見込時間

イ 基地病院屋上ヘリポートで不具合が生じた場合の対応

ウ 事故等により専用機が損傷し運航継続が困難となった場合でも、事業を継続できる体制およびリスク管理の方法

(6) ランデブーポイント（場外離着陸場）

ア 消防機関等から提案のあった候補地調査・選定についての手法

イ 消防機関、現地関係者への説明方法

ウ 現地作業（患者搬送）の簡易マニュアル

(7) 運航開始後の訓練

運航開始後の訓練実施の考え方や計画等について具体的に記載すること。

3 愛媛県の実情にあった運航

(1) 愛媛県ドクターへリが抱える喫緊の課題への対応

本県では、ドクターへリの更なる有効活用に向けて、以下の課題を喫緊の課題と認識している。

については、下記課題に対する基本的な考え方を明らかにするとともに、契約期間中における機体更新・装備強化等の提案も含めて記載すること。

ア 重症患者に対するECMO（体外式膜型人工肺）やIABP（大動脈内バルーンパンピング）等の高度医療機器を装着した状態での搬送

イ クベースを用いた新生児搬送

ウ 妊産婦・周産期患者の緊急搬送（機内スペースの確保及び専門医の同乗）

エ 搭乗医師・看護師の効率的な養成（搭乗できるOJT人数の増）

(2) 県外搬送（広域搬送）への対応

本県では、救急患者数の増加に伴い、県内で救急手術等に対応できない事例の増加が見込まれる。このため、関西圏など都市部の高次医療機関への搬送を必要とする事案の増加を想定している。

については、県外搬送（広域搬送）を安全かつ確実に実施するための基本的な考え方、必要な機体性能（長距離飛行に耐えうる十分な航続距離・燃料搭載量、患者・医療スタッフ双方の安全余裕や快適性、安定した飛行性能等）、運航体制について提案すること。

また、長距離搬送時においても救命処置を中断せずに実施できる十分なキャビンスペースや医療機器搭載能力についても考慮し、提案に反映すること。

(3) 併用方式を踏まえた運航管理システムの提案とその理由

本県では、ドクターへリの運航方法として、発進基地方式（松山空港から出動）を基本としつつ、屋上待機方式（基地病院の屋上ヘリポートから出動）を柔軟に組み合わせて運航することとしているが、円滑な運航を行うためには、基地病院

と松山空港が緊密な連携を図ることが重要である。

このため、松山空港と基地病院の間で、搬送患者等の情報を適切に共有することができる仕組みを含めた運航管理システムの具体的な内容等について提案すること。

(4) 愛媛県消防防災ヘリコプター、消防機関、隣接県等との連携

関係機関等との連携について基本的な考え方や具体的な連携方法等を具体的に記載すること。

(5) 災害時の対応

愛媛県の地理的条件等を踏まえた、災害時におけるドクターヘリの活用の考え方や人員体制等について具体的に記載すること。

なお、原子力災害を含む広域・特殊災害に際しても、国、県、関係機関との連携の下、搬送、訓練参加等に柔軟に対応できる体制について提案すること。

(6) 普及啓発活動、住民対応

普及啓発活動にどのように取り組むべきと考え、どのように実現していくのか具体的に記載すること。また、騒音対策（調査等）や住民からの苦情対応などについても具体的に記載すること。

4 提案書作成上の留意事項

- (1) 提案書の様式は自由とするが、A4縦長横書き又はA3横長横書き（2ツ折り）片面印刷とし、日本語で表記すること。
- (2) 提案書1部（正本）には記名・押印し、押印しない提案書10部（副本）とともに提出すること。（添付資料を含む。）
- (3) 審査員が漏れなく正確に評価できるよう編集に配慮すること。
- (4) 必要に応じて資料を添付すること。